



発行所 〒763-0223 香川県丸亀市本島町泊268  
**天理教本島大教会**  
 電話 0877-27-3321 (代)  
 本島通信編集室 R.170624-0628-23  
 奈良県天理市指柳町270-1  
 本島詰所 〒632-0093  
 電話 0743-63-1571 (呼)  
 Email: news@honjima.com  
 発行部数: 949部 (先月比±0)  
**大教会 朝夕おつとめ時間**  
**[6月1日~8月31日]**  
 朝づとめ 午前6時00分  
 夕づとめ 午後7時00分

# こどもおちばがえり 成人の歩みの原点に

## 6月大教会教会長会議

立教180年6月22日

### 大教会長 片山幹太



去る5月30日から2週間ほど、ロサンゼルスとハワイの部内教会を12ヶ所ほど参拝させて頂いてきました。

ハワイでは、挨拶によく使うジェスチャーがあります。親指と小指だけ広げて手を振るもので、ハングルーストかシヤカと言います。「元氣?」「だいたいようぶ」という相手を気づかう意味がこめられていて、車を運転しているとき、道を割り込ませてもらったとき、また「ありがとう」「さようなら」というときに言葉以上のコミュニケーションとして使われています。

修養科一期講師のとき、私もたまに使っていたのですが、隣のクラスのご婦人さんが「先生それ違いますよ」と言うのです。掌の方を相手に見せるのではなく、手の甲の方を相手に見せるのが正しい「シヤカ・ブラー(ブラザー)」なのだそうです。

その由来は、オアフ島の北にあるライエという街に住んでいたハマナ・カ

リリという方が、サトウキビ工場で働いていたときにローラーに手をはさんでしまい、親指と小指だけになってしまいました。彼が親指と小指だけの手を振って、子ども達や通行人に挨拶をしたところ、人々が2本指で応えたことから「シヤカ」サインとして知られるようになったそうです。

掌を相手に見せると、切断了指が見えてしまう。すると嫌な気分や怖い思いをさせてしまいます。しかし手の甲を相手に見せると、切断了3本指が隠れて見えません。そこには、思いやり、愛情、尊敬、同情といったアロハ精神が込められていて、ハワイでは世代を越えて日常的に使われているのだそうです。(※シヤカやハングルースの由来には諸説あります)

今日の「縦の伝道講習会」における先生のお話にもありましたが、まず私たちが陽気ぐらしの心を持たせて頂き、それを子ども達に映していくこと。ハ



ワイのおじさんの思いやりが子ども達に受け継がれていくことと同じように、子どもに信仰を伝えて行きましょう。

「こどもおちばがえり」が迫ってきました。今日のお話では、こどもおちばがえりがきっかけで、教会長夫人になられたという話がありました。成人の歩みの原点が、こどもおちばがえりにあるかもしれません。こどもおちばがえりへの声かけ、さらに陽気ぐらしへの丹精に、ともに努めさせて頂きましょう。

ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)



上が「シヤカ」  
下が「ハングルース」

少年会・縦の伝道講習会 (要旨)

立教 180 年 6 月 22 日 [本島大教会]

# 「親神様は結構にお与え下されてある」

少年会本部委員

ふかやひでみ  
深谷英美 先生

本日は6月の月次祭、誠におめでとうございます。また日々は、少年会活動の上にご尽力を頂きまして、高いところからではございますが、心よりお礼を申し上げます。引き続き、少年会「縦の伝道講習会」を開催して下さいということで、昨日より大教会に来させいただきました。少年会本部委員の深谷英美と申します。どうぞよろしく



お願いいたします。

## 元一日がごもおちばがえり

さて、実は私は天理教をまったく知らない家で生まれ育ちました。入信のきっかけは、夏の「ごもおちばがえり」だったのです。

小学4年生のとき、クラスメートに天理教の布教所の子どもがいて、団参に誘って頂きました。

わが家は広島県の因島いんのしまにありました。遊園地のようなところはなく、遊ぶようになったら泳ぐ、貝掘りする、釣りをする。冬になるとミカン狩りをする。因島から出ることはなかなかなかったのです。ですから、「ごもおちばがえり」は夢のような話だったのです。

その頃の団参は、列車を貸し切っていました。列車に乗れるし、友だちと

お泊まりできる。奈良まで行ける。というので、クラスのほとんどが、ごもおちばがえりに参加してました。およそ40人くらいの団参でした。

私の母は腎臓を患ってしまして、毎日布団に寝たり起きたりしてました。そこで、当時は団参のカラー版チラシなどありませんから、友だちからスナップ写真を借りて来て「お願いじゃけえ、行きたいんよ。行かして」って頼んで、おちばがえりに参加しました。

初めておちばに帰らせて頂き、神殿に着いて、きつと私は「お母さんが元気になるように」とお願いしたんだらうと思います。団参が終わってから、連れて行ってくれた布教所の方が母のところは何度も通ってきてくれるようになりました。今思えば、おさづけを取り次いで下さったんやなあと思っています。

それで母は「天理教なら助かるかもしれない」と信仰を始めました。そして私が小学5年生のときに、修養科に入学しました。おちばまでの車中は、毛布に包まれて、後部座席で横になるような状態でした。

私は毎月おちばがえりして、母に面会しました。1ヶ月目、2ヶ月目はしんどそうでしたが、3ヶ月を終えた母

は、別人のように元気になって戻って来ました。私は「神様っておられるんかも」って思った瞬間でした。

それまでも病院の入退院を繰り返していましたが、3ヶ月ぐらいい入院することもあったのですが、病院から帰ってきて布団の中で寝たきりだったのです。でも修養科のときだけは違いました。本当に元気に、活き活きとした顔になりました。これが私の信仰の入口であったと思います。

それから家に神様をお祀りいたしました。父は入信せず、どちらかという反対でしたので、神様はタンスの引き戸の中にお祀りし、そこへちっちゃな御鏡とお供え物と賽銭箱が置いてありまして、母はそこで一生懸命おつとめを勤めていました。

私はどちらかという、試験の前に100円お供えして「テストが出来ますように」とか、ちょっと好きな子ができると100円お供えして「両思いになりますように」と願う程度でした。

それでも私が神様に手を合わせるようになったのは、2つの大切なことがあったからだと思います。

## 教会に居場所を

一つは、初めて「ごもおちばがえり

り」に参加した後、布教所の方が足を運んで下さったことです。大勢子どもがいる中で、その子の母親が病気だという話を聞いて頂いて、おたすけに通ってくれて、修養科にも連れて行ってくれて、その後もいろいろと丹精をしてお下さった。それがあったから、信仰に繋がったのだと思います。

もう一つは、その所属教会で行っていた鼓笛隊に入ったことです。小学5年から中学1年まで3年間通わせて頂きました。

私の住む因島には天理教の教会がいっぱいあるのですが、私が繋がったのは本土にある教会だったのです。今みたいに、しまなみ海道が通っていません。車ごとフェリーに乗って、1時間以上走ったところに教会がありました。

遠かったのであまり多くは通っていないのですが、何回か練習に行きました。そして練習そのものはそんなに覚えていないのですが、カレー作りをしたり、室内オリンピックのようなゲームをして遊んでもらいました。

私の記憶の中では、楽しかったというより、ゲームをしてくれるお兄さんお姉さんや、ファイフを上手に吹く教会の子ども達が素敵だなあと、あ

のようになりたいたいと思ってました。だから、鼓笛活動を通してですが、教会に通ったのですね。

父は、「自分は天理教をしない」と言っていました。それでも母を元気にして頂きましたので、車で教会に送ってくれるというのはしてくれませんでした。

さらに、いつからだだったのかは定かではないのですが、元日の初参拝も教会へ家族で行くようになっていました。

わが家は古い家風が残っていましたので、お正月は祖父母と家族そろってお節会を頂くというのが好きだったりだったのです。それを済ませて、遠い道のりを走って教会に初参拝に行きました。教会は元旦祭が終わってまずし、直会がお鍋料理だったのですが、それも終わりがけだったのです。そこに私たち家族が初参拝を済ませて、帰ろうとする時引き留めてくれて、「因島が来るかもしれない」と一鍋用意してくれていたのです。

私たちは因島代表でもないのですが、教会では「因島が来る」とか「因島が帰る」と呼ばれてまして、用意してくれていたのです。そういうこともあって、毎年の元日、初参拝に行かせてもらったのかなと思います。

このように教会へ通うようになったのは、鼓笛が楽しかったからと、教会に居場所を作って下さったからです。それまで、布教所の方がおたすけに通って下さったことと、私たち家族が教会へ通えるように声かけをして頂き、教会で丹精して下さいました。この二つのことがあって、私は入信に至ったのだと思います。

### モヤモヤ・フツフツ・メラメラ

その後、私は地元の高校を卒業してから、天理高校専修科へ入りました。続いて天理高校女子寮の幹事を勤めさせて頂き、その時に主人とご縁を頂いて、まあいろいろとありましたけれど、も神様にお働き頂いて結婚、そして中野大教会へ夫婦で入り込ませて頂きました。すぐ女の子が生まれましたので、翌年に子どもを連れて初めて「こどもおちばがえり」に参加しました。

実は私たち夫婦は、教会事情があった、親の声を頂いて、全然知らない土地の全然知らない教会へ夫婦で行かせてもらったのです。ですから知り合いが一人もいないのです。

ですから、「こどもおちばがえり」を目指してちょっと顔見知りになった近所の方に声をかけても、誰も行ってく

れません。結局ゼロだったので、せめて我が子だけでもいい、その当時おちばにいた友だちに連絡して、そこにはお子さんが1人いましたので、4人だけの「こどもおちばがえり」でした。

おちばでは生後6ヶ月の子を連れて、ちよっと水遊びをして、それはそれで楽しかったのですが、周囲には私が子どものときに経験した「こどもおちばがえり」のいつもの風景があるのです。

あちこちで団参しているのです。私自身は楽しいのですが、次第に釈然としなくなってきました。私自身が団参で知った「こどもおちばがえり」に、我が子は私と2人、これでいいのかなあと、なんか心がモヤモヤして、フツフツとして、次第にメラメラしてきまして、次の年からは本気で「こどもおちばがえり」のお誘いをさせて頂きました。

知り合いは誰もいませんので、チラシを作り、主人と学校帰りの小学生に声をかけてチラシを配るところから始めました。

「誰？」って感じでした。子どもですから「なにになに？」って寄ってくる子もいましたが、完全無視されることもありました。

そんな具合でしたが、すこし離れた

「ご近所で2軒、「行けるかも……」という家があったのです。ほかは全滅でしたから、その2軒が頼りだったのです。」

大教会の7月月次祭が23日なので、その日に「なんとか2人が行ってくれますように」と願いをかけて、祭典が終わった夕方、主人と一緒にお家へピンポンと訪ねました。するとお母さんが出てみえて、スパッと2軒とも断られたのです。

その帰り道に主人が「まあ、神様は受け取って下さってるで」と言っていて、思わず泣けてきたのを覚えていきます。

そこでその年も我が子と2人の「子どもおぢばがえり」となりました。

翌年、2才になった長女を自転車に乗せて、また学校帰りの子どもさんたちにチラシ配りをさせて頂きました。皆さんも経験があると思いますが、無視されるのが一番つらいですね。それが続くと、もう帰ろうかなと思うのですが、この2才の長女が「もうちょっと、もうちょっと」と言うのです。そこで力が湧いてきて、チラシ配りを続けてましたら、2人組のある女の子に出会い、その日の夜に「行けます」という電話を頂いて、「ヨッシャー！」という気持ちで夫婦揃って飛び跳ねて喜び

ました。本当に嬉しかったです。

以来、多い年も少ない年もありますが、今日まで続けさせて頂いておられます。私自身が「子どもおぢばがえり」で神様とつながり、今があるので、私と同じように、「子どもおぢばがえり」でたすかる子があると信じて、これからも声をかけ続けようと思っています。

### 教会おとまり会・子ども会実施を

さて、天理教少年会は昨年創立50周年を迎え、真柱様のお言葉をもとに新しい活動方針を出させて頂きました。「日々陽気ぐらしを実践し、その喜びを子供たちに伝えよう」

そして重点項目として、

- 一、教会おとまり会・教会子ども会の全隊実施
- 一、支部ひのきしん活動の実施と家族ぐるみの参加
- 一、わかぎ育成の強化―直属団での子弟練成会と教区団でのわかぎ練成会の実施と充実―

この中で特に、教会おとまり会に加えて「教会子ども会」を入れさせて頂きました。とにかく教会へ足を運んでもらえるように、たとえお泊まり会が出来なくても、日帰りでも教会へお誘い

しようという思いからです。

### おとまり会は人だすけにつながる

10年程前になりますが、一人のご婦人さんが教会に電話をかけてきました。「たすけてください。教会に行ってもいいですか」とのことです。

「どうぞ、どうぞ、来て下さい」と教会に来てもらいました。そこで私は「なぜ教会に来てくれたのですか?」とお尋ねしましたら「家にチラシが入っていたので、電話しました」とのことです。

ちょうど全教一斉にいがけデーの後で、皆で割り振りしてチラシを配布させて頂いたのですが、よく訊くとその1枚のチラシで電話してきたわけではなく、その方はお家の事情で引越を繰り返してきたのですが、どこに行っても天理教のチラシが入ったそうなのです。

それからもう一つ、小学生のときに、近くに天理教の教会があったらしいのですが、何かよくわからなかったけれども、誘われたから教会に行ったそうなんです。「その時のカレーライスがとても美味しかったから、私をたすけてくれるとしたら天理教かな」と思ったそうなのです。そして、次にチラシが入ったら電話をしようと思っていた

ところへ、私どもの教会のチラシが届いたのでした。現在、別席を運び中です。「教会のカレーライスが美味しかったから、天理教なら温かく迎え入れてくれると思った」というお話、それはきつと教会おとまり会のことでしょう。

教会に足を運んだ子ども達が、どんなところで助かっていくのか、それは教祖にしか分からないのかもしれないですが、必ず人だすけに繋がっているのだと思います。

ですから、「子どもおぢばがえり」にお誘いすることも、教会おとまり会を通して教会に足を運んでもらうことも大切なおたすけだと思えます。

教会によっては、高齢問題とか、敷地の広さとか、子どもがいないとか、実施しにくい理由はいろいろあるでしょう。

でも教会おとまり会ができなくても、「教会子ども会」からでもして頂けたらとお願いいたします。

少年会本部では「教会おとまり会のおすすめ」というリーフレットを全教会に配布させて頂きました。この中に、教会子ども会の3つの要素を記しております。

#### ① 参拝をする。

#### ② 神様のお話を聞かせる

## ③ 楽しませる。

そして、プログラム例も紹介させて頂いておられます。短いプログラムだと2時間、学校帰りにもできます。

神様のお話が難しいなど思われたら、少年会本部には教材をたくさん用意させて頂いておられます。

特にパネルシアターでは新作「朝起き、正直、働き」を作りました。飯降伊蔵先生が教祖からお教え頂いた陽気ぐらしへの生活習慣です。

ゲームカードもありますので、どうぞご利用いただけたらと思います。

## 「親神様が結構にお与え下されてる」

さて、教会おとまり会、教会こども会を通して教会に繋がるお話をいたしました。なぜ教会へ参拝をするのか。なぜ教会へ繋ぎたいのか。

それは言うまでもなく、陽気ぐらしの出来る人を増やしたいからです。

親神様は、人間が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいと思召され、人間と世界をお創り下さいました。そのことを知って陽気に暮らせる人が増やせるように教会へ繋がってほしいのです。また子どもさんにも伝えていきたいのですね。

それを伝えるためには、あらためて

育成に当たる大人達が、日々の暮らしの中で陽気ぐらしの実践をして、喜びを味わっているかどうかが肝心です。

そこを目指すための活動方針なのです。そこで陽気ぐらしの実践について、

今年の年頭幹部会において真柱様は、「教祖のひながたこそ、この道を歩む者すべてが頼りとする、ただ一つの尊い手本である」と仰せられました。

たとえば立教から20年程経った安政の頃、中山家は貧のどん底でした。そんなある日、末女こかん様が、お母さん、もう、お米はありません。と、言う、と、教祖は、

「世界には、枕もとに食物を山ほど積んでも、食べるに食べられず、水も喉を越さんと言うて苦しんでいる人もある。そのことを思えば、わしらは結構や、水を飲めば水の味がする。親神様が結構にお与え下されてある。」と諭されました。

特に最後のお言葉、「親神様が結構にお与え下されてある」には、水のご守護と、水を飲むことのできる身体のご守護を頂いていることをお教え下さったのだと思います。この「親神様が結構にお与え下されてある」との心で、成ってくるこの事柄に対して、親神様の思召を探ることができたなら

ば、何気ない日々の生活の中にも、「今日も親神様が結構にお働き下されてある。ありがたいな」。また良いことが起きてきたときにも、「親神様が結構にお働きくださいな」と思われる嬉しいな。また一見悪いと思われることが起きてしまったというときにも、「辛いな。そやけど、きつと親神様が結構にお働きくださるはずだ」。ご守護を探そうという思案ができて、心を明るく切り替えることができると思います。

## 「帝王切開でよかったですね」

少し私が経験した話をいたします。

私は子供を4人お与え頂いております。先ほど出てきた長女23才と長男21才、二男19才、二女が15才です。

この長女は早くに結婚させて頂き、今一児の母になっています。この長女のお産のときのお話です。

臨月に入ってから、医師から「逆子です。帝王切開の方向で行きましょう」と言われました。

私はそれまで3人の逆子におさづけさせて頂き、自然分娩ができた不思議をみせて頂いてきたので、娘も絶対だいたいよぶ、教祖は必ず逆子を治して下さるから、今日から教会に日参する

ように勧め、そして毎日おさづけをさせて頂きました。

そしていよいよ帝王切開の予定日、私も病院へ付き添いまして、最後の検診を受けました。医師は「立派な逆子です。帝王切開で行きましょう」と言われました。

私は「立派な逆子ってどういうこと？」と思いましたが、無事に手術で出産いたしました。そして術後もおさづけさせて頂きながら、順調に快復しました。

けれども娘は「おさづけをしてもらったら逆子が治ると信じてた」とポロツと本音を言ったのです。

それから無事入院期間を終えて、退院前に外来の小児科医に検診して頂いたところ、「赤ちゃんの左鎖骨が折れています」とのことでした。

身長の高い妊婦(娘は身長150センチもないのですが)に赤ちゃんが大きいと、ときどきあるそうなのです。でも骨折は自然にくっつくので心配は要りません。続いて医師は驚くことを言われました。「帝王切開でよかったですね」と。

もし検診のとき鎖骨骨折が見つかったいたら、その時点で自然分娩では危ないから帝王切開になるそうなのです

が、娘の場合、検診では見つかっていなかったもので、逆子のおかげで帝王切開で本当に良かったと、医師に告げられました。

毎日おさづけをさせて頂いたのに帝王切開になったからご守護がなかったというのではなく、親神様は常に結構にお与え下されてあるんやなと感じました。それに気がついて、喜ぶことができました。

もしここで信仰がなかったらどうなるのでしょうか。帝王切開で痛い思いをした上に、お腹の中で鎖骨が折れていたのに気づかないなんてお医者さんどうしていたんやろう。最悪や。と腹を立てたり恨んだりしていたかもしれません。

信仰しているおかげで、成ってくる姿から喜びを見出せるのだと思います。そういう喜びを子供たちに伝えて行きたいと思います。

「赤ちゃんの産まれた喜び……」

赤ちゃんのお話が続いて申し訳ないのですが、もう一つお話をさせていただきます。

私の教会で昨年あったお話です。臨月になって胎盤剥離で胎児を亡くされた方がいます。赤ちゃんの出直しにつ

いては、子ども達には話していたのですが、中学生だった二女には話しそびれていたのです。

娘は何も知りませんから、一人で参拜に来られたその方に「赤ちゃんはどうしているの」と聞いてしまったのです。

伝えていなかった私の失敗なのですが、すると彼女が娘にそのときの話をしてくれました。

胎盤がお腹の中で剥がれ、ものすごい出血で命も危ない状態で病院に着いた時、お腹の赤ちゃんはもう心臓が動いていなかった。だから躊躇うことなく、医師は母胎を守る処置をしてくれて、今自分が生きていること。もしその時赤ちゃんが生きていたら、どちらの命を優先するのか、究極の選択をしなければならなかった。悩んでいる間に2人とも出直していたかもしれないけど、赤ちゃんの出直しのおかげで私は守ってもらったのよと、話してくれました。

しかもそのとき病院には、胎盤剥離を経験した医師が揃っていて、すぐに輸血もして頂くことができ、最適の処置をしてもらったから守られたのよ。本当はわが家のいんねんを考えたら、私はもう命がなかったところ、その赤

ちゃんに守って頂いたのよと、中学生の娘に分かるように話してくれました。

信仰があったからこそ、親神様に危ないところを守って頂いたと、心を切り替えることができたのだと思います。娘は泣きながら話を聞いていたようですが、きつと神様に守られた話は一

生心の中に残ると思います。後で私がおの方に謝りましたら、「聞いてもらえてよかったです。赤ちゃんのおかげでまた一つおたすけをさせて頂きました」とお礼を言われました。

教祖が仰せられた「親神様は結構にお与え下されてある」との心で、成ってくることを思案することができたら、どんな状況の中からも一条の光を見出せるのではないのでしょうか。

最後に、因島の母は2年前に出直しました。今でも急に寂しくなったりします。

それでも人工透析をしながら33年も生きることができたのは有難かったと思います。もしあの時、私が小学4年生の時に天理教に出会っていなければ、どうなっていたでしょうか。母は天理教と出会って、「こんな病気の私にもできることがある」と喜んで生きてくれました。それは人だすけの喜びです。

同じように病気で苦しんでいる人の話を聞いたりとか、近所のお宅の玄関先で長々と話をしておさづけを取り次いだりとか、自分にできるおたすけがあるという喜びを知ったから、母の人生も、私たち家族の人生も変わったのだろうと思います。

それはすべて、私が「こどもおぢばがえり」に誘って頂いたところから始まったのです。

本年も7月26日から8月4日まで「立教180年こどもおぢばがえり」が開催されます。

一人でも多くのお子さんをおぢばへ、教祖の元へ帰らせて頂けるように、ともに声がけに励ませて頂きましょう。ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)



# 六月月次祭 祭典役割

**獻饗長** 寺本教生  
**伝供** 老木邦光・雲庵道延・篠原丕王・永山晴明・吉田晴雄・岡崎八十則・永島宗行・菅岡繁幸・高島栄造・太田昭一・宮路和徳・沖野一道・肥後章・茶屋原良昭・位下道治・渡部友見・伊東康成・加藤文男・鎌田典夫

宮路茂照・村田輝夫・星久・柴田久生・古井信・山下英久・溝口晋太郎・木村大禧・香川秀孝  
**雅楽奉仕者** 平井真治郎・文岡育則・高垣光治・大矢万三・雲庵春彦・片山直明・長尾海和・岩橋守行・鎌田康典(順不同)

神殿講話	祭主 指図方 大教会長 岩橋慶三	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半	地方	てをどり	ちやんぼん 拍子木	すりがね 太鼓	小鼓	三味線	胡弓													
					岩橋慶三	老木邦光	岡崎俊郎	岩橋慶三	大教会長	片山勲	片山清弘	高島清弘	片山やすゑ	長尾澄子	井上哲	寺本管一郎	片山肇	片山好治	雲庵道延	寺本教生	片山榮	片山孝代	片山ハル子	深谷英美先生
					窪田靖明	永山晴明	窪田靖明	永山晴明	牧野道昭	吉田知彦	高垣光治	池田さわみ	向所暉美子	雲庵まち子	向所隆文	花田百一	篠原丕王	永島宗行	菅岡繁幸	原口実	岡崎むつゑ	原口和子	花田菊子	花田菊子
岩橋慶三	老木邦光	岡崎俊郎	永山晴明	香川秀孝	太田昭一	平井真治郎	岩橋守行	肥後章	篠原久子	佐藤道子	四辻朝恵	奥村龍夫	滑川善久	田中丸勝也	高島栄造	大西剛	長尾海和	伊東晴美	加藤道代	梅木澄代	深谷英美先生			

## 六月月次祭祭文

立教百八十年六月二十二日

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹大慎んで申し上げます。

親神様の厚き御守護のまにまに、幾重の道すがらも恙なく結構にお連れ通り下さいます御慈愛の程は誠に有難く勿体ない極みでございます。

私共は届かぬながらも常に御恩報じを念じて、日々勇んで時句の御用に励ませて頂いておりますが、その中にも今日の吉日は、当大教会にお許し頂いた月毎の御祭日でございますので、只今からおつとめ奉仕者一同、心を一つに揃えて、陽気に座りづとめ・てをどりをつとめて、六月の月次祭を執り行わせて頂きます。

御前には、親を慕って帰り集いました教え子達が、喜びも一入におうたを唱和して、日頃賜る御厚恩に御礼申し上げ、尚も一筋心にお継りする真実の状をも御覧下さいますして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

尚、本日はおぢばより少年会本部委員、中野大教会長夫人、深谷英美先生のご出向を賜り、本年の「縦の伝道講習会」を祭典に引き続いて開催させていただきます。

この講習会を通しておぢばの理を頂戴し、一人でも多くの人と共に一ヶ月後に迎えます「こどもおぢばがえり」を賑やかに、そして少

年会員には「笑顔ひろがれ！たすけあい」のテーマをお土産に持ち帰って頂けるよう、丹精に努めさせて頂く所存でございます。

続いて八月九日から十五日までの「学生生徒修養会高校の部」が実施されるに当たり、おぢばに於いて、道の学生をお育て頂けるよう、胸から胸へと声掛けに励ませて頂きたいと存じます。

何卒、親神様にはこの上共に変わらぬ親心を賜り、一層のお導きとお育ての程を一同と共に慎んでお願い申し上げます。  
 (原文のまま)

## 入社祭 (立教180年6月22日)

▼エヌ・シー△シングルトン・マライカ△ヴァレラ・アンドリュウ△アガステイン・アントニー (計3名)

6月22日(木)

【香川県丸亀市】

天候 曇  
 最低気温 19.7℃  
 最高気温 25.7℃  
 平均気圧 1009.1hPa  
 平均湿度 77%  
 平均風速 1.9m/s  
 日照時間 3.9時間  
 降水量 0.0mm

## 教会長子弟育成者研修会(第四回)

今年 4 回実施される「教会長子弟育成者研修会」の最終回が、6 月 25 日に本島詰所で実施され、73 名(スタッフ 9 名含む)が受講しました。

昨年、本部布教部では、教会長子弟の育成を推進し、将来にわたる育成体制の基盤を整備することを目的に「教会長子弟育成プロジェクト」が立ち上げられ、本島大教会では教会長夫妻や後継者夫妻に、子弟育成についての意識を高める場、さらに 3 ヶ年の取り組みのスタートとして、この研修会が実施されることになりました。

内容は 4 回を通じて、基本プログラムであるビデオと練り合いに加え、本島独自に、「体験発表」「育成者としてのふりかえり」「次の教祖年祭に向かっての夢」が行われました。

挨拶に立った大教会長は、祖父母や両親から学んだ体験をもとに「子ども一人ひとり

をいろんな人に育ててもらおうのが大切ではないか」「親神様のご守護の世界に生かされていることを伝え、まず親神様への感謝からという順序を教えること」「子どもの頃から、天の貯金の大切さ、徳積み、の尊さを教えること」について述べられました。

この夏からは、いよいよ本部において「後継者講習会」が開催されます。子弟育成の重要性が増している中、特に自教会の将来に不安を抱える受講者からは「参考になった」「勇気を頂いた」と勇みの声が聞かれました。

全 4 回の受講者数は第 1 回 59 名、第 2 回 71 名、第 3 回 61 名、第 4 回 64 名、計 255 名でした。なお教会長子弟育成委員会(牧野道昭実行委員長)では、10 月 25 日に全受講者を対象に、本部員・井筒梅夫先生(本部布教部長)を講師にお招きし、「人材育成研修会」を開催いたします。

## 大教会長動向

### ▼7月(予定)▲

2日、攝南分教会就任奉告祭  
3日～4日、本宮濱分教会

### 鎮座奉告祭

6日、本部神殿奉仕当番  
8日、本宣道分教会巡教  
10日～14日、任命講習会世話係  
16日～17日、本千賀分教会

### 鎮座奉告祭

22日、大教会月次祭執行  
26日～29日、やかた講話  
30日、本部神殿奉仕当番

## 少年会隊長任命

(立教180年6月付)

赤峰隊 宇野早希恵  
大松峰隊 中 理

## ろくろく(立教180年6月分)

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△長尾真実・幸太△片山秀明△藤山さちよ ▼権太分教会 ▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉 ▼本浜△片山清枝・正枝・誠 ▼本攝△片山元一・直道・菜々 ▼崇徳分教会 ▼阿波本徳分教会

## 役に立つたん話

「わしはな、昔ラッパ吹いとなんや」  
寺本管一郎先生の話を聞いて、私はつきり本島鼓笛隊のことかと思つたら、ぜんぜん違う。さらに時代がさかのぼること 72 年前の昭和 19 年、先生が国民小学校高専科 2 年(現在の中学 2 年)時のことだという。

当時、本島では各部落ごとにラッパ手を選出し、事あることに活躍していた。管一郎少年はその年、教会がある宮の浜のラッパ手に選ばれ、1 年間その責務を果たしたのだという。

例えば、日曜日の朝は地域住民が総出で、八幡神社の境内掃除をするようになっていた。そこで午前 5 時に起床ラッパを吹くのだ。

「教会の横の小川に、ボロ船の底を渡した橋があつて、そこで吹いたんや」

このほかにも、食事ラッパ、行進ラッパ、君が代ラッパ、消灯ラッパなど、各メロディーが決まっていて、すべて口伝で覚えた。楽器は小型でバルブをもたないナチュラル・ホルンの一種「ビューグル」だ。「二番辛かったんは、英霊が帰ってきたときやった」

戦死した軍人さんを小学校の門から式場まで運ぶときに、ラッパ手が吹奏する。笠高、甲生、宮の浜、泊、小阪、大浦の各ラッパ手が、涙に堪えながら吹いたのだ。

「秋の運動会は生ノ浜の分校であつて、ラッパ吹きに行つたんや。ところが昼メシが出なかつたので、仕方なく昼休みに教会まで走って往復した」

先生が目を大きくして言われるのには、本島の地形を考えると納得がいく。生ノ浜から宮の浜の教会まで直線距離で片道 3 キロある。

しかも標高 150 メートルの尾根を二つ越えて行くのが近道で、下駄を履いて必死に走つたのだという。

当時は戦争の真っ最中、教会にどんなメシがあつたのか。それでも腹を空かした 13 歳の必死に山を越える息遣いに、私もなぜかともに懐かしさを覚えるのである。(向所)

※ユーチューブで「信号ラッパ」と検索したら、ラッパのメロディーを聴くことができます。







## 立教180年子どもおちばがえり

【少年会本部】

- 期間：7月26日より8月4日まで
- テーマ：「笑顔ひろがれ！たすけあい」
- 少年会本部に日程報告書を提出された教会は、本島詰所にも帰参日程と人数をお知らせ下さい。家族やグループでも必ずご報告下さい。

## 夏の行事予定

要項は来月発表されます

### 〈婦人会〉

- 女子青年・こかん様に続く会  
期日：8月中旬に実施  
会場：本島大教会
- 委員部長講習会  
期日：8月24日(木) 25日(金)

### 〈青年会〉

- あらきとうりょう入門塾  
期日：8月中旬に実施  
対象：16歳から18歳の男性  
会場：本島大教会

### 〈少年会〉

- おつとめ総会と夏のつどい  
集合：8月19日午後4時より受付  
解散：8月22日朝食後  
会場：本島大教会

### 〈学生会〉

- 詰所ひのきしん  
期日：8月5日(土)
- サマーキャンプ  
期日：8月16日(水)から19日(土)  
会場：本島大教会

<http://www.honjima.com/>

本島大教会ウェブサイトを

## 第 104 回本島団鼓笛隊夏季合宿 開催要項

【本島団鼓笛隊】

- 集合：7月26日夕刻まで大教会集合
- 解散：8月4日夜～5日朝にかけて(本島詰所で解散)
- 参加資格：小学1年生より高校3年生までの男女(幼稚園児不可)
- 合宿会場：本島大教会、本島詰所
- 本番プログラム：8月2日前夜祭(詰所4階講堂)、3日鼓笛御供演奏、鼓笛オンパレード、おやさとパレード出演。4日本島鼓笛隊総会、会食
- 参加御供：小中学生7,000円、高校生8,000円。お米3升または1,500円。船賃については分隊担当者へお尋ね下さい
- 服装：合宿期間中は、練習着(帽子、シャツ、短パン、ポシェット)貸与
- 携行品：楽譜、ファイフ(1000円でお分けいたします)、健康保険証コピー、健康チェック用紙、宿題、筆記具(学習時間があります)、着替え、パンツ5枚、靴下5枚、パジャマ1セット(期間中一度洗濯します)、洗面道具(歯磨きセット、タオル)、風呂道具(シャンプー、リンス)、室内用運動靴(練習で使用しますので、普段履きなれた外履きを拭いて持参しても結構です)、海浜行事に必要なもの、水着、ビーチサンダル、バスタオル、海に着ていける私服(水着の上から着用できる物)、日焼け止めが必要な人は持参ください。本番用の白い靴(練習用と兼ねても結構です。裏地も白。ハイカット靴はご遠慮下さい) ☆ドリーム隊(小1～小3)のみ：白のノースリーブ又は袖無しシャツ、白ブリーフ(本番用・各2枚)
- 注意点：持ち物には必ず名前を記入して下さい。携帯電話は禁止、期間中はお預かりします。電気製品持ち込み厳禁(ヘアドライヤー、ヘアアイロン、MP3等プレイヤー、ゲーム機、iPad、デジタルカメラなど)。インスタントカメラは可。不必要な金銭は持たないでください(現金を持たせる場合は、お預かりする関係上、小さめの財布に入れて下さい。長財布不可)。集合から解散までの食事、おやつ類は用意します。期間中、ご父兄の方の宿舎立ち入りはできません。御用の際は指導員にお申し出ください。
- 補正説明(よくお読み下さい)
  - ・ 合宿期間中は、次の隊編成および班編成で行動をとめます。小1～小3までドリーム隊、小4～中3まで本隊。
  - ・ 健康チェック用紙に詳しく病状をお書きの上、服用中の薬はご持参ください。

- ・ 夜回りの際、事前申し出のある場合のみトイレに起こしますので、チェックカードにご記入下さい。
- ・ 合宿参加前に必ず爪を切って来て下さい。
- ・ 歯は各自で磨きます。仕上げ磨き等はありませんので、事前練習をお勧めします。
- ・ お風呂は班単位で入ります。自分で洗いますので、事前練習をお勧めします。
- ・ 身体を洗うナイロントオル、身体を拭くタオルは入浴時配布します。石けんはお風呂に常備しています。
- ・ 学習時間がありますので、学習道具をご持参ください。
- ・ カバンの中身は、お子さんと確認しながら一緒にご用意頂き、整理しやすい状態に小分けすることをお勧めします。
- ・ 洗濯は8月2日まで毎日行いますが、それ以降の汚れた衣類は持ち帰ります。汚れ物を入れる袋をご用意下さい。
- ・ 本隊での参加の際はファイフが必要です。1000円でお譲りいたします。
- ・ 練習用の室内履きを必ずご用意下さい。
- ・ 本番用の白靴と、ドリーム隊参加者は白い袖無しシャツ、白ブリーフが特に忘れやすいのでご注意下さい。
- 鼓笛隊入隊についてのご相談・合宿についてのご質問は、鎌田典夫まで。

## 学生生徒修養会高校の部

【本部学生担当委員会】

- 期間：8月9日より8月15日まで  
8月9日午前9時までに詰所に集合。  
8月15日正午ごろ詰所で解散。
- 受講対象：高等学校に在学し、全期間受講できる者(親里管内の高校生は天理高等学校第1部の自宅通学生に限り受講可)
- 受講御供：8千円(受講御供8千円のうち、半額を大教会ろくち会より助成いただきますので、4千円を詰所に納めて下さい)
- 受付期間：5月25日より7月25日(必着)  
※ 受付期間は7月25日となっておりますが、7月26日以降でも受け付けて頂ける場合がありますので、係にお問合せ下さい。
- 申込方法：受講願書1通(大教会長の捺印が必要)、返信用封筒1枚(保護者氏名、住所、郵便番号を記入し、82円切手を貼付して下さい)
- 詳細については本島学生担当委員会(池田さわみ)まで。